

カラーピーマンの 2 本仕立て栽培は 慣行の 4 本仕立て栽培より多収となる

野菜花き試験場

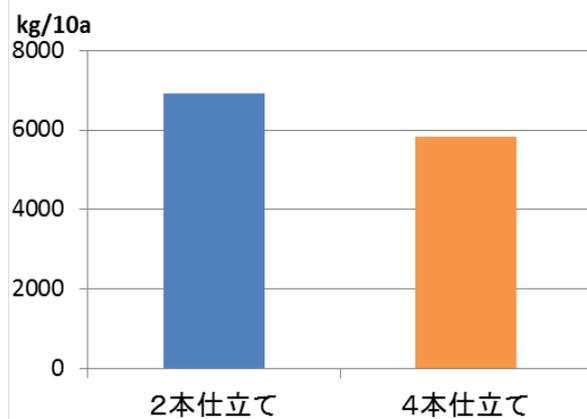
1 技術の要約

カラーピーマンは、栽植密度を高め主枝を2本として仕立てることで、慣行の主枝4本仕立てより多収となります。

2 技術の内容

本県のカラーピーマンは、第2分枝までの4本を主枝とする4本仕立てが多く行われています。しかし、一果重が大きく熟果で収穫することや、軒高の低いハウスでは斜め誘引せざるを得ないため、主枝の生育が不揃いになりやすく、作業中に枝が折れるなどして、必ずしも設定した主枝数で栽培できない場合があります。そこで、面積当たりの主枝数を確保するため、株間を従来の主枝4本仕立ての半分程度の20~30cmに狭めて栽植密度を高め、第1分枝の2本を主枝とすることで、節数が増加し、面積当たりの収量が増加することを明らかにしました。

栽植密度を高めることで、単位面積当たりの苗購入費や育苗経費は多く必要となりますが、粗収益の増加額が大きいいため、所得は向上します。



仕立て本数と商品果収量 (10a 当たり)

仕立て本数と生育

仕立て本数	主枝 1 本当たり		平均節間長 (cm)	主枝 4 本換算			
	節数	主枝長 (cm)		総節数	総主枝長 (cm)	主枝折れ枝数	伸長不良枝数
2本	21.8	124	5.7	87.0	498	0.0	0.0
4本	20.3	107	5.3	81.2	427	0.5	0.3

仕立て本数と10a当たり収益の試算 (3カ年の平均)

仕立て本数	栽植株数 (本)	収量 (kg)	粗収益 (千円)	同左差額 (千円)	仕立て方により変わる経費 (千円)	同左差額 (千円)	増益額 (千円)
2本	2,441	6,922	2,769	435	365	171	264
4本	1,294	5,835	2,334		194		